

私たちの活動や意見を平和委員会のなかまたちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNo. 191 2008年2月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

http://www.geocities.jp/ino011_jp/

百里平和稲荷初午祭 今年も盛大に

自衛隊・民間機共用が決まった百里基地周辺は基地に向かう道路がどんどん作られています。基地の中はどのように変わっているのかと、心配しながら初午祭に参加しました。

いつもなら百里基地の自衛隊は土日、祝祭日はお休みで、正門の守衛と百里稲荷初午祭への参加者の監視の隊員がフェンスの向こうに立っていたり、車で巡視しているだけで、平日のジェット機の騒音は無いのですが、今年はちょっと様子がちがいました。ダンプカーが基地の中を走り回っているのです。

そんな様子を横目で見ながら公園には例年よりも少し多いかなと思われるくらいの人たちが集まってきました。特に今年は若者や新顔が多く見られました。今年はいつもの型どおりのセレモニーはなく、実行委員会のあいさつや来賓のあいさつなしで、参加団体の出した模擬店を覗いて手作りの弁当や飲み物を買って求め、歓談したり歌を歌っていました。



続々と集まる参加者（展望台から）

百里の今後の姿はどうなるのでしょうか

平和公園の百里一望の展望台に登ってみると、はるか向こうの射撃場山から東に向かって新しい滑走路を作っているのが良く見えます。百里平和稲荷は西側の誘導路のど真ん中に鎮座していて誘導路を「くの字」に曲げていることで有名ですが、その誘導路を大型ダンプカーがひっきりなしに走り回っているのです。新しい滑走路の東端の辺りが大きく広がったように見えます。周辺の民有地の地主に対して札束を積んで用地買収を進めているそうです。この滑走路が民間機の滑走路ですが自衛隊機も使います。日米共同訓練のときは米軍機も来るわけですが、民間機ははたして1日何便来るのでしょうか。

先日は自衛隊のF15が訓練中に部品を落として問題になりました。2本の滑走路の間隔が普通よりも狭いことも不安材料です。このような不安を抱えた中で民間共用が始まろうとしているのです。

各地の空港が経営難に悩んでいる中での茨城空港が茨城県財政にとってお荷物にならなければという思いを強くした1日でした。

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会のなかまたちに伝えます
 私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

「誰も書かなかった義勇軍」を読んで その1 井上仁志

美野里町の元町会議員吉野年雄さんが「誰も書かなかった義勇軍」という本を書かれた。

吉野氏は1941年15歳で満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所に入所され、満州に渡って義勇隊開拓団から関東軍に入隊し、終戦直前には侵攻してきたソ連軍と戦い、捕虜になってシベリアに抑留されたうえ、中国に送り帰されて1958年まで抑留生活を余儀なくされた実体験による335ページの労作である。この本の主要テーマは、体験を振り返って「満蒙開拓青少年義勇軍」とは何だったのかという出発点からの疑問を追及している。実にさまざまな資料を研究した上でたどり着いた結論は、満州移民政策が関東軍による最高の軍事秘密として進められ、「満州農業移民百万戸移住計画」を策定したのは、満州移民に反対していた高橋是清蔵相が暗殺された2・26事件の直後であった。さらに翌年関東軍参謀部によって「青年農民訓練所創設要綱」が発表され、満州国建国農民の募集と訓練が開始された経過から、2・26事件は満州国建国のためのクーデターであったというのである。これについては次回若干の考察を加えてみたい。

青少年による満蒙開拓計画の発案者は加藤完治であったが、加藤が最初に考えていた農村救済のための農業移民構想は途中から関東軍の方針によって変更されてしまったのである。つまり、移民という呼び方は侵略的であるという理由で開拓と改めたが、開拓団は単なる農業移民ではなく関東軍の補助となる「義勇軍」であった。ソ連軍は満州事変当時関東軍と互角であったのが急速に増強されていた。この兵力差を補うことが軍の至上命令となっていたのだという。吉野氏は渡満後まもなく「関特演」に動員されて弾薬運びをさせられている。その後送られた訓練所はソ満国境に近く、廃墟となったソ連の町が目前に見える三岔口（旧東寧）という軍事機密地域であったという。開拓団は最初の3万人送出計画が5万人に増やされ、全国各地の小学校高等科から集められた少年たちが内原の訓練所で短期間の訓練を受けた後渡満していったのであった。（続く）

新型パトリオットミサイル（PAC3）は弾道ミサイル迎撃用

航空自衛隊霞ヶ浦駐屯地に新たに配備されるPAC3は従来の航空機迎撃用ミサイルではなく弾道ミサイル迎撃用です。霞ヶ浦駐屯地には発射機（ランチャー）が5台配備されていますが、このうちの2台をPAC3用に改造するものです。これは日米間の合意で進められているアメリカ本土防衛計画の1部に組み入れ

られているものです。1発7億円のPAC3を4発装填して2台分でミサイルだけで56億円。全国各地に無数に配備すれば天文学的な予算が使われることとなります。アメリカの要求に応じてこのような浪費を黙って許すわけにはいきません。土浦でも反対の声を上げていこうということで実行委員会を発足させます。

活動ごよみ

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 2・19 平和の会理事会（保健生協事務所） | 3・9 憲法九条土浦の会署名行動（土浦駅） |
| 2・25 被爆63年平和のつどい実行委員会
（保険医協会事務所） | 3・12 5・3憲法記念日実行委員会第2回 |
| 2・28 革新懇世話人会（神立コミセン） | 3・20 PAC3反対緊急集会（ワークヒル） |
| 5・3憲法記念日実行委員会第1回 | 3・22 革新懇総会（神立コミセン1：30～） |
| 3・5 PAC3反対実行委員会（最上屋） | 3・24 被爆63年平和のつどい実行委員会
（保険医協会事務所） |

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
 早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください